ポジティブ感情への自己注目

－『ポジティブな反すう尺度』翻訳の試み－

○牟田季純¹・越川房子²

(¹早稲田大学大学院文学研究科・²早稲田大学文学学術院)

キーワード：自己注目，ポジティブ感情，反すう

Pilot Study for Translated Scale of Response to Positive Affect

Toshizumi MUTA¹, Fusako KOSHIKAWA²

(¹Graduate School of Letters, Arts and Sciences, Waseda Univ., ²Waseda Univ.)

Key Words: Self-focused Attention, Positive Affect, Rumination

目 的

抑うつへの自己注目理論(self-focused attention)では、自己の気分に注意を向けた際の認知プロセス(反すう)を媒介とした気分状態の維持や増幅(Nolen-Hoeksema & Morrow, 1993; 坂本, 2005)を説明している。この反すう傾向を測る尺度として「ネガティブな反すう尺度」(伊藤・上里, 2001)が開発されている。一方でFeldman, Joormann & Johnson (2008)は、ポジティブ感情にも気分障害において果たす理論上の役割があることに注目して、ポジティブ感情が生じた際の自己焦点的反すう(Self-focus)・意気消沈(Dampening)・情動焦点的反すう(Emotion-focus)の3側面を測定する「ポジティブな反すう尺度(Responses to Positive Affect Questionnaire; RPA)」の開発を行った。本研究ではこのRPA質問紙の翻訳を試みた。

方 法

大学生85名(男性29名, 女性55名, 不明1名, 平均年齢20歳)を対象に調査を行い、欠損値を取り除いた84名のデータを分析対象とした。質問紙は、翻訳したポジティブな反すう尺度に加え、Feldman, et al. (2008)が基準関連妥当性の検討に用いた尺度の邦訳版または邦訳版がない場合は同様の認知変数と考えられる尺度によって構成した。ただし、本稿ではポジティブな反すう尺度の因子の妥当性のみを検討した。

結 果

17項目について3因子を仮定した最尤法・斜交解による確認的因子分析を行ったところ、概ね原版と同じ因子構造を再現できたが、いくつかの項目で複数の因子にまたがって因子負荷量が一定の値を示し、そのうち2つの項目が原版とは異なる因子に含まれた($p = .674, p < .01$)。そのため、その2項目を削除した15項目について確認的因子分析を行ったところよく収束し表1のような結果となった($\alpha = .749, p = .058$)。

考 察

日本語版ポジティブな反すう尺度の因子構造は概ね再現された。しかし十分な信頼性係数が得られなかったこともあり、基準関連妥当性などと共に今後さらなる検討が必要である。

引用文献

伊藤拓・上里一郎 (2001). ネガティブな反すう尺度の作成およびうつ状態との関連性の検討 カウンセリング研究, **34**, pp.31-42.
坂本真士 (2005).抑うつと自己 坂本真士・丹野義彦・大野裕 (編) 抑うつ臨床心理学 東京大学出版会, 第5章 pp.75-96.
Feldman, G.C., Joormann, J., and Johnson, S. L. (2008) Responses to Positive Affect: A Self-Report Measure of Rumination and Dampening, *Cognit Ther Res.* **32** (4), pp.507-525.

表1:「日本語版ポジティブな反すう尺度」の各項目と因子負荷量

#	項目	I	II	III	cat
6	「自分の幸運は長くは続かない」と考える	.854		.247	D
14	この感じは長く続かないと自分に言い聞かせる	.803		.200	D
15	悪くなっていく事柄について考える	.723		-.102	D
4	「これは自分にふさわしくない」と考える	.589			D
10	あなたにとってうまくいっていない物事について考える	.575	.137	-.233	D
1	「これは出来すぎた話だ」と考える	.529	-.168	.173	D
12	「自慢していると周りに思われる」と考える	.489			D
8	専念するのがいかに難しいかについて考える	.485		-.263	D
17	「なんでもやり遂げている」と考える		.949	.179	SF
9	「なんでもやりこなしている」と考える	-.133	.785		SF
3	「自分の能力を発揮して生きている」と考える		.676	.108	SF
13	自分自身をいかに誇りに思うかを考える		.606		SF
16	いかに元気いっぱいに感じているかに気づく		.280	.726	EF
5	どれくらい自分が幸せに感じているかを考える	.229	.175	.587	EF
11	今この瞬間を十分に味わう	-.110		.523	EF

除去した項目：2. 何をしてもいかに気が乗っているかを考える (EF), 7. どれくらい自分が強いと感じているかを考える (EF)